

TPiCS レポート

新社屋への移転を記念して(?)開催させて頂きました
“第2回TPiCSユーザー会”及び“第1回システム
インテグレーション会”は、それぞれ 約30名様のご参
加を頂き 盛大にとり行なうことが出来ました。
お忙しいところ、また 遠方からのご参加 誠に有難う
御座いました。
TPiCS は、思想 理論 機能 スピード 価格 どれ

をとっても、この業界のデストロイヤーになってしま
ったようです。
価格は 誰が見ても解りますが、その他の事は、自分の
目で見なくては イヤ 見ただけでは 理解出来ないか
もしれないような内容です。
「パソコンの生産管理」という枠の中では とても想像
出来ない 水準になってしまいました。

今回のテーマ

● 生産管理の病気自慢



ダウンサイジング ダウンサイジング と言われ始めて
から しばらく経ちますが、
TPiCS にも漸く本格的なダウンサイジングの波
が押し寄せてきました。
私がこの様なことを言うに「今さらなにを」と げげん
に思われる方も多いと思いますが、それは こんなこと
なのです。
TPiCS は沢山の方にお使い頂いています。
コンピュータを使った生産管理は初めてだ という方
も沢山いますが、実は オフコンや汎用機をすでにお使
いのユーザーさんが 大半をしめています。
しかし そのユーザーさんの中で、まともに動いている
汎用機のシステムを捨てて TPiCS に乗り換えて
頂いた方はありませんでした。勿論 内部では 色々不
満はおありでしょうが (f-MRPは無いし?)、お話を
伺う範囲では立派に動いているのです。
汎用機のシステムに疑問を感じTPiCS に乗り換
えて頂く。これは大変なことです。

“特殊な事情で 全社システムを使えないため TPi
CS を利用する”とか
“規模の小さな新工場で TPiCS を使う”あるい
は
“引きずるように稼働してきた、システムをリース切
れを機に、TPiCS に切り替える”などとは ずい
ぶん話が違います。
汎用機が生産管理システムといっても、結構お粗末な

ものも多く、掛ったであろう費用と ついやしたであろ
う歳月を思うと “お気の毒に”と言いたくなるような
ものも数多くありました。
勿論、素晴らしい考え方をベースに 素晴らしいシステムも
沢山あります。
そんな ユーザーに TPiCS をお使い頂く、これが
本当のダウンサイジング だと思います。
そのようなユーザーさんからの要求は厳しいものがあ
ります。
逆に大変貴重なアイデアを頂戴出来ます。
実績管理面や原価関係などは、さておき 計画 手配面
については、TPiCS のなかで、トコトンやって行
こうと思っていますので、今後のバージョンアップで
更にハイエンドのシステムを目指して 挑戦を重ねて
参ります。
こちらに力が無いと、ユーザーさんの要求が “夢” や
“無理難題” のように見えてしましますが、ある程度
力がつくと、“あと もう一歩頑張れば出来る”と、思
えるようになります。
またこうなると ユーザー側からも「TPiCS なら
何とかするかもしれない」と思っただけなのでしょう。

今回 IV VII J Pro のバージョンアップ (→ Ver
2) は、すでにご案内している内容で大体固まって来
ましたので これは 6月中(?)に 何とか リリース
したいと思っています。

- TPiCS-IV、VII、J、Pro のバージョンアップについて
今回のバージョンアップも全て無料で行ないます。
当社の準備が出来ましたら 申込用紙と利用状況をご記入いただくアンケート用紙を お送りいたしますので、
それをご返送下さい。順番に 発送いたします。

お送りするシステムディスクには、データのコンバータも入りますので、お使いのデータを 連続して運用することが出来ます。

システムのリリースは、Btrieve 版が 先になります。

オリジナルデータベース版のリリースは その後です。

- ウイルスの実体験を、TP i C S ユーザーから初めて 聞きました。

勿論TP i C S 自身は 無関係なのですが、NetWare のクライアントが侵されてしまいました。

ファイルが壊れたり、ドライブが認識されなくなったり、突然ハングアップしたり、それは悲惨な状況のようでした。

トラブルが発生すると その原因を追及しなければなりません。

あらゆる 可能性を排除し 最後に、「残るは ウィルスぐらいしか考えられない」と、市販のワクチンとよばれるソフトを購入し テストしてみたら、みごと (?) ひっかかったそうです。

感染源は 不法コピーしたエディタ らしい とのことでした。

なお TP i C S のデモ版は、返却頂いた後 毎回 マザーディスクから diskcopy 仕直しますので 感染源になる心配はありません。

- TP i C S - B r a i n の Btrieve 版 は、8月頃(?)には 完成したいと思います。

ユーザー様へは 別途ご連絡致しますので、ご希望の方は その時に お申し出下さい。

従来版から Btrieve 版への交換は、今回も無料です。

生産管理の病氣自慢

病院に行くとお爺さんとお婆さんが話しています。

「最近腰が痛くてねえ」

「まー あなたなんか腰だけならいいじゃないですか、私なんか 腰も肩も頭も歯も 皆ガタガタです。

こないだなんかね... で、

まったく いやですねー」

生産管理の仕事をしていまして、同じような話を よく聞きます。

「コンピュータを使って生産管理をしたいのです。

うちの現場はゴチャゴチャで、お客さんから 納期問い合わせが来ると 現場を一回りしないと答えられないのです」

「今 何が どこで どうなっているか そんなことが当社では わからないのです。

いつ出来るのか。一人 納期回答専任のようになっています」

事情はよく解るのですが、この話 どうも納得いかないことが多いのです。

何が何処にあるかが わかっても、その先 計画通りに行く保証がなければ、本当に知りたい“何時完成するか”は、依然として解らないではありませんか？

「なーに！その先は長年の経験で、何時出来るのかは 大体見当が付くのです」

ならば「何時着手したかが 分れば よいのですね！」

「工程の進み具合によっては、そうも行かない時もあるから、ある程度は 途中工程での情報も欲しいのです」

「ならば 最終工程の一つ前の工程で データをとれば 良いのですか？」

「いや それでは...」

「だって 何処にいるかが分ったって 後工程が分らないのだから...」

この話で、私が申し上げたいのは「今何が何処にいるかを知る努力をするより 先に、計画を示し どうしたらその計画通りに進むかを もっと一生懸命考えた方が良いのではないのでしょうか」ということです。

“管理する”ということ、“実績を把握すること”と勘違いしていませんか？

ゴチャゴチャの実情をコンピュータに記録するのが管理だと思いませんか？

コンピュータにインプットし、パソコンの小さな画面でそれを見るのが大事か？、仕事が計画通りに清々と流れるのが大事か？

もし仮に 全てが 計画通りに事が運ぶなら、計画表をめくるだけで、納期回答ができるではありませんか。そうすれば、現場を一日中歩きまわらなくて良いではありませんか。

いやそんな次元の低い話ではなく、マネージメントとして 大変大きな効果があるではないですか。

「部品手配は 汎用機でやっているのだから 工程の管理だけをパソコンでやりたい」と おっしゃる方も 結構沢山います。

私にしてみれば、従来のMR Pシステムで計算した たれ流しの計画を現場に渡しておいて、土壇場になって計画を引っ掻くような現状をそのままにしておいて、“引っ掻き仕事”を 少しばかり改善したってしょうがないと思っています。

ゴチャゴチャを無くし、基の計画そのものをもっとイキイキとしたものにすることを 考えて頂きたいと思います。

ゴチャゴチャの尻ぬぐい仕事をしながら、そのゴチャゴチャの状況を パソコンの小さな画面を通して見られるようにしても 何の改善にもなりません。計画を引っ掻き回しながら、“計画を守れ”と言ったってそれは無理です。

大事なのは、守るに値する計画を示し、守らせることです。

管理とは、起きた事象を記録することではなく、計画を示し (Plan)、計画を守り 実行する (Do)、計画と照合する (See) ことです。

その目的は、早く 安く 良い品質の製品を作るためです。

その為には、物が清々と流れることが 絶対必要です。生産管理の仕事をしていると、しょっちゅう“原価管理”とぶつかります。

生産のフレキシビリティを疎外してでも“原価”を知りたいと思っている人々(?)と話をしなければならない事態になると、うんざりします。

原価の話になると 何時も私の最後の台詞は

「死んだ子供の年を そんなに一生懸命数えたってしょうがないでしょ」です。

システムを検討する場合も同じです。

T P i C S の f-MRPをよくご理解頂かないうちは、従来の病気のシステムの延長線で 色々な機能を要求されます。“減産になった場合を想定して??の機能

●全く早いもので、新社屋に引っ越して もう2ヵ月経ってしまいました。

広くなった 新しい事務所で、気持ちよく仕事が出来ようになりましたが、山手線の内側で 草取りや 植木の世話が大変という、贅沢な悩みを持つようになってしまいました。

このところ 休日はいつも 苛酷な肉体労働に従事させられています。

●ダウンサイジング、ネットワーク、生産管理と 強烈な追い風に吹かれています。

欲張って帆を大きく張りすぎたり、急に進路を変えたりせず、**ガンコ**に これまでと全く同じ姿勢でやっていこうと思っています。

が必要”“変更になった場合は??の処理が出来ますか?”“追加の時は...”“設計変更が起きたら...” 私 の目には、現在の“病状”を前提にして、人工呼吸器や、心電図、点滴の心配をしているように思えるのです。

動かない関節をさすりながら、松葉杖を論じていても何も改善されません。

永い間 関節を動かさなかった為、本来関節は動くもの、動かした方が体に良いということを 忘れてしまったのではないのでしょうか。

手作業の限界が、或いは 従来の MRP という ギブスのようなシステムの為か、また 製造側の被害者意識が、本来動くはずの関節を すっかり硬化させてしまっているように思えるのです。

生産計画は本来どんどん変更するべき

なのです。

“生産計画を変動させない前提”の考え方が、如何に大きな悪影響をもたらすかを 今ここで気付いて頂きたいと思います。

二ノ宮